

## ごみ処理の現状とごみ排出量等の現状

## 1 ごみ処理の現状

## (1) ごみ処理の主な沿革

年 月	沿 革
平成3年4月	資源回収団体育成奨励金交付事業を実施
平成5年6月	資源物の分別回収事業を実施
平成9年4月	蒲郡市クリーンセンター稼働 家庭の生ごみ堆肥化容器(コンポスト)の補助金制度を開始
平成9年7月	ペットボトルの回収を開始
平成11年1月	ごみ袋の透明化(半透明袋)を実施
平成11年5月	家庭の生ごみ処理機(電動・手動)及びボカシ密封発酵容器の補助金制度を開始
平成11年7月	不燃ごみステーションを全て廃止し、資源物と同時に収集
平成12年4月	蒲郡市リサイクルプラザ、蒲郡市一般廃棄物最終処分場稼働 粗大ごみステーションを全て廃止し、直接クリーンセンター等に持ち込む拠点収集及び戸別収集方式を実施
平成12年7月	ユトリーナ蒲郡(余熱利用施設)稼働
平成12年10月	破碎ごみ(30 cm以内の複合素材・硬いプラスチック)を資源物と同時に収集
平成15年4月	びんのかごを白色一色にし、茶色かご(金属製品類)、緑色かご(紙パック)の区分を新設
平成15年11月	家電リサイクル法に基づくリサイクル体制が確立したため、家電4品目の取り扱いを中止
平成17年4月	2箇所の拠点ステーションのうち、府相粗大ごみステーションを廃止し、クリーンセンター1箇所に変更
平成18年4月	可燃ごみの収集業務を全て民間業者に委託 粗大ごみのシール方式の戸別収集を実施
平成19年10月	プラスチック製容器包装の収集(大塚地区、三谷地区の一部)
平成20年1月	資源物朝出し事業の取組(第2・第4木曜日地区)
平成20年10月	資源物朝出し事業の追加取組(第2・第4の火・水曜日地区) プラスチック製容器包装の収集(西浦地区、形原地区・塩津地区の一部)
平成21年3月	蒲郡市一色不燃物最終処分場の埋め立て終了
平成21年4月	可燃ごみ袋を黄色の指定袋制に変更 協力店舗によるレジ袋の有料化を開始 粗大ごみの戸別収集と犬・猫等の死骸収集を民間業者に委託
平成21年7月	全市で資源物朝出し事業の取組

平成21年10月	可燃ごみ袋の指定袋制の完全実施 クリーンセンター日曜資源受付の開始 プラスチック製容器包装の収集（形原地区・塩津地区・蒲郡東 北部の一部）
平成22年3月	汚泥供給設備の竣工（下水汚泥・し尿汚泥の混焼開始）
平成22年10月	府相資源拠点ステーションの開設
平成22年11月	プラスチック製容器包装の全市収集
平成25年4月	・資源ステーションからの資源物持ち去り行為の禁止 ・ステーション早朝パトロールの開始
平成26年4月	・ピックアップ方式による小型家電リサイクル事業の実施
平成26年8月	・リサイクルバザールの実施
平成26年10月	・市内5箇所で小型家電リサイクルのボックス収集
平成27年4月	・事業系ごみ（一般廃棄物）処理手数料、産業廃棄物処理手数料 の改正（事業系ごみ10kg当たり60円から80円、産業廃棄物10kg当 たり80円から110円に改正）
平成28年4月	・羽毛布団をリサイクル会社へ引き渡し開始 ・事業系ごみ（一般廃棄物）処理手数料、産業廃棄物処理手数料 の改正（事業系ごみ10kg当たり80円から100円、産業廃棄物10kg当 たり110円から150円に改正） ・ごみステーション環境美化出前講座の実施
平成30年12月	・資源・ごみ分別アプリ「さんあ〜る」の配信

## (2) 家庭系ごみの区分

分別区分		排出方法等	収集方式等	収集頻度	収集主体
可燃ごみ（燃やすごみ）		指定袋	ステーション方式	週2回	委託
不燃 ごみ	こわすごみ	かご	ステーション方式	月2回	委託
	埋めるごみ	かご			
資源物	古着	透明な袋	ステーション方式	月2回	委託
	古紙・紙パック	かご			
	プラスチック製容器包装	網		プラ容器 週1回	
	ペットボトル	網			
	びん	かご		小型家電 ボックス 随時	
	金属類	かご			
	缶	かご			
	乾電池・蛍光灯	かご			
小型家電	回収ボックス かご				
粗大ごみ		戸別シール添付	戸別収集	随時	委託

### (3) ごみ処理フロー

- 可燃ごみは、「蒲郡市クリーンセンター」で焼却処理し、焼却灰は「一般廃棄物最終処分場」で埋立処分しています。
- 不燃ごみ、資源物及び粗大ごみは、「蒲郡市リサイクルプラザ」で破碎選別等を行い、資源物は再生資源化業者等で資源化し、埋立ごみや破碎残渣は「一般廃棄物最終処分場」で埋立処分しています。
- 府相日曜資源拠点では、日曜日に資源物の拠点回収を行っています。
- 剪定枝木については、一色不燃物最終処分場の草木破碎機で破碎処理し、一部を農地に還元しています。

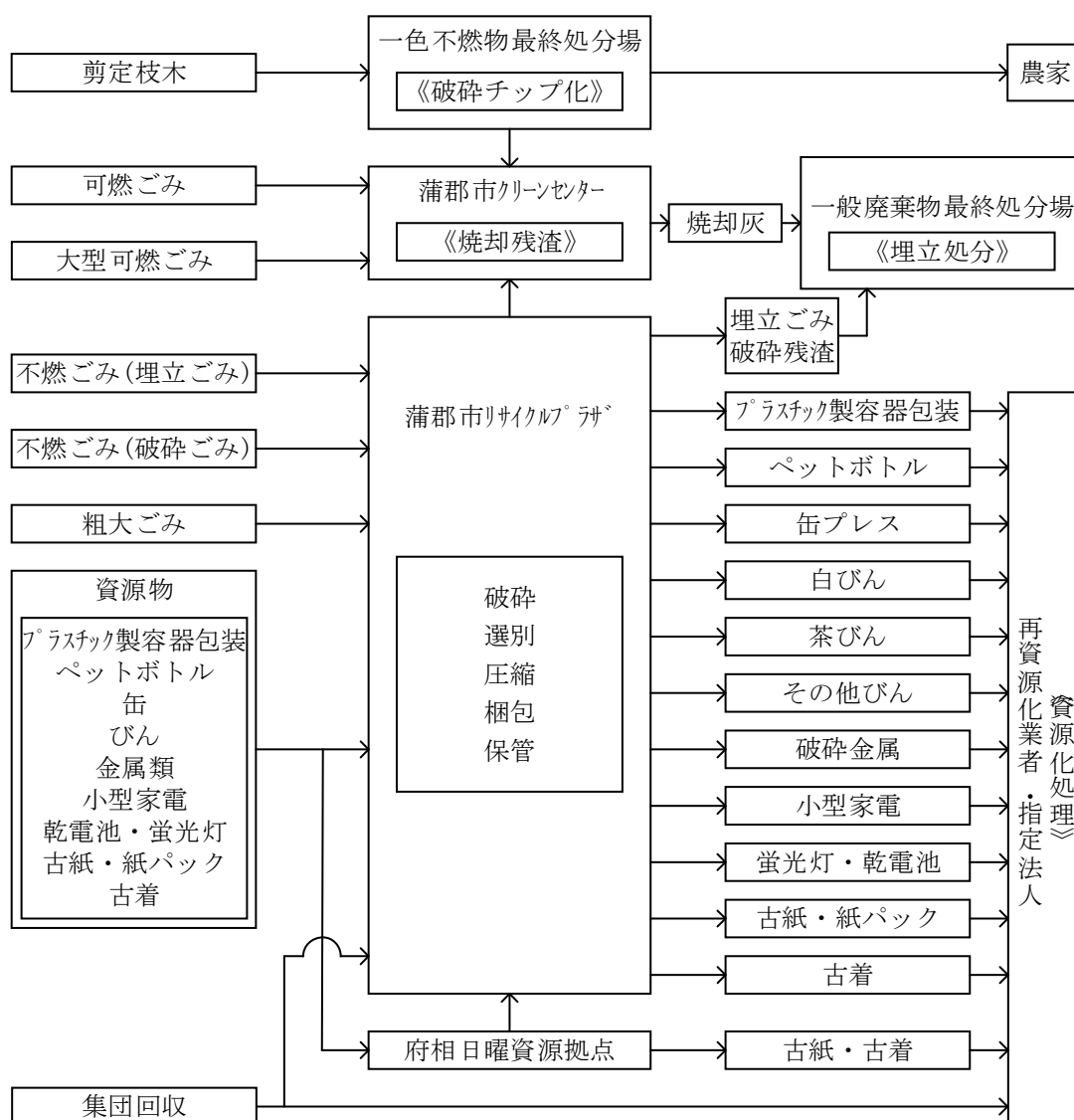


図 ごみ処理フロー [令和元年度]

## 2 ごみ排出量等の現状

### (1) ごみ排出量の実績

過去5年間（計画期間中平成26年度～平成30年度）のごみ排出量は、下記の表のとおりです。家庭系ごみは、増減を繰り返しており、事業系ごみは、平成28年度以降、減少しています。

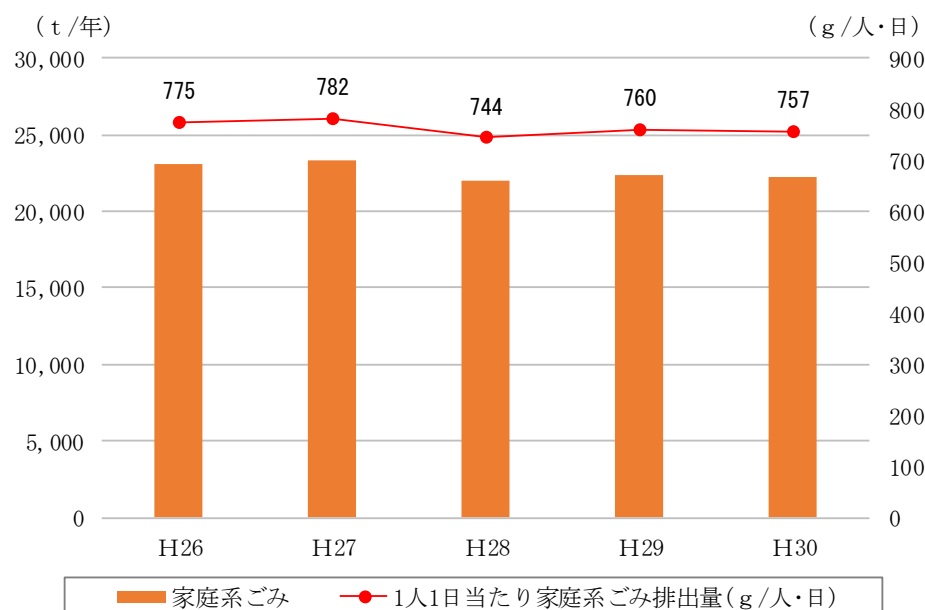
1人1日当たりのごみ排出量は、ほぼ横ばい傾向を示しています。

表 ごみ排出量の実績

			平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
人 口		人	81,668	81,404	80,946	80,622	80,483
家庭系ごみ	可燃ごみ	t/年	15,223	15,603	14,998	15,343	15,162
	不燃ごみ	t/年	620	607	578	589	608
	粗大ごみ	t/年	1,073	1,019	1,013	961	1,095
	資源物	t/年	4,397	4,156	3,712	3,695	3,599
	集団回収	t/年	1,795	1,910	1,674	1,771	1,784
	計	t/年	23,108	23,295	21,975	22,359	22,248
事業系ごみ	可燃ごみ	t/年	12,129	12,023	11,818	11,829	11,588
	不燃ごみ	t/年	59	120	113	83	78
	資源物	t/年	0	0	425	372	509
	粗大ごみ	t/年	122	84	75	54	59
	計	t/年	12,310	12,227	12,431	12,338	12,234
ごみの総排出量		t/年	35,418	35,522	34,406	34,697	34,482
1人1日当たりのごみ排出量		g/人・日	1,188	1,192	1,165	1,179	1,174

※各ごみの排出量は、「一般廃棄物処理実態調査」による。

※「人口」は、各年度10月1日人口としている。



※「資源物」と「集団回収」を含む。

図 家庭系ごみ排出量の推移

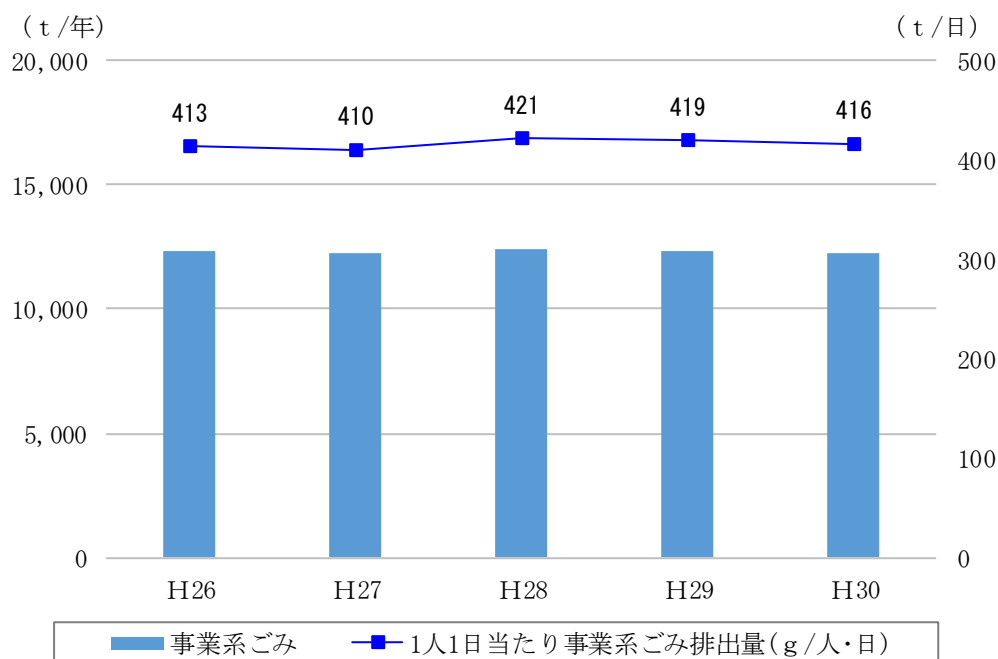


図 事業系ごみ排出量の推移

## (2) 資源物の実績

過去5年間（計画期間中平成26年度～平成30年度）の資源物の量は、下記の表のとおりです。平成26年度は、小型家電リサイクル事業の実施により増加しています。

多くを占める紙類の量は、大きく減少し、容器包装プラスチックは、増減を繰り返しています。

集団回収量は、ほぼ横ばい傾向であり、リサイクル率は、年々減少していましたが、平成30年度は前年度より増加しています。

表 資源物の実績

(単位：t/年)

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
資源物 施設 の 資源 化 量	紙類	2,705	2,500	2,201	2,014	1,835
	紙パック	18	17	17	15	16
	布類	257	237	217	216	228
	金属類	647	671	666	637	661
	ガラス類	559	562	504	480	563
	ペットボトル	184	185	179	176	178
	容器包装プラ	326	306	335	309	324
	肥料	338	230	402	293	517
	その他	186	219	157	198	188
	計	5,220	4,927	4,678	4,338	4,510
集団回収量		1,795	1,910	1,674	1,771	1,784
総資源化量		7,015	6,837	6,352	6,109	6,294
リサイクル率		19.8%	19.2%	18.5%	17.6%	18.3%

※各資源物の量は、「一般廃棄物処理実態調査」による。

### (3) ごみの性状

可燃ごみのごみ質は、下記の表のとおりです。「紙類」及び「ビニール・合成樹脂類」がおおむね55%前後で推移しています。

近年、「厨芥類」が減少し、「木・竹・藁類」が増加する傾向にあります。

表 可燃ごみの組成分析

(単位：%)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
紙類	38.3	35.1	36.8	34.7	34.5
ビニール・ 合成樹脂類	16.1	22.4	21.2	18.0	21.2
繊維・布類	5.3	4.7	4.4	4.9	5.9
ゴム・皮革類	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0
木・竹・藁類	15.8	14.6	11.8	20.8	19.5
厨芥類	24.5	22.6	24.4	21.7	18.8
不燃物類	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1
その他	0.0	0.6	0.9	0.0	0.0
計	100.0	100.0	100.1	100.1	100.0

※水分を含む状況で分析し、厨芥類に多く含まれます。

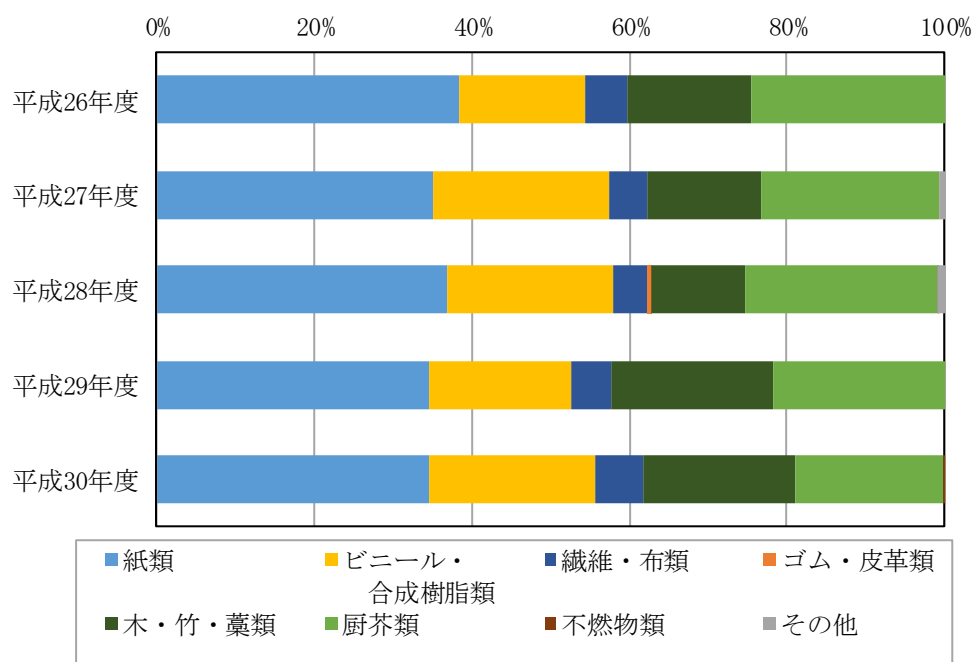


図 可燃ごみの組成分析の推移

#### (4) 全国平均及び愛知県平均との比較

本市の1人1日当たりのごみ排出量を全国及び愛知県と比較すると、表に示すように、家庭系ごみ及び事業系ごみとも国、県より多量に排出されています。また、資源化率についても、国、県よりも低くなっています。

表 全国及び愛知県との比較（平成29年度）

(単位：g/人・日)

	全国平均	愛知県平均	蒲郡市
1人1日当たり 家庭系ごみ	641 69.7%	663 72.4%	760 64.5%
1人1日当たり 事業系ごみ	279 30.3%	253 27.6%	419 35.5%
1人1日当たり ごみ排出量	920	916	1,179
全国平均との差		-4	259
愛知県平均との差			263
資源化率	20.2	21.7	17.6%

※一般廃棄物処理実態調査による。

※家庭系ごみには資源物と集団回収を含む。